

令和7年5月26日

ウォーカブルなまちづくりの活動 提案書

活動名	番町・麴町エリア 民間敷地で ” つなぐ” プロジェクト
提案者名	中央復建コンサルタンツ株式会社 東京本社
提案者の所在地	〒102-0083 東京都千代田区麴町2-10-13

【下記事項について記載してください。】

○開催時期：7～10月頃

○活動場所：提案者敷地を含む千代田区道201号沿道施設

○目的：

- 千代田区道201号沿道の民間敷地で協力して、パブリックな滞留空間を“一体的”かつ“日常的”に創出することを目的として、本活動を実施する。なお、2024年3月より当社敷地内でウォーカブルな取組「パーチ！」※を実施しており、本活動では既存の取組での実績を活かして、当社敷地から滞留空間のつながりを広げるとともに、番町・麴町エリアをはじめとした人々の交流の場づくりを行うことで、目的を達成する。

※「パーチ！」については別紙参照

■ “一体的”な空間のつながり

- 千代田区道201号沿道の民間敷地の余白を活用し、パブリックな滞留空間を創出する。隣接する民間敷地によって滞留空間が連続することで、一体的な空間の“つながり”を創出する。

■ “日常的”な人のつながり

- パブリック空間を活用し、地域の人々の活動や、地域の人々が「やってみたいこと」を実現する機会を創出する。パブリック空間での活動を通じた人々の交流によって、パブリック空間の認知を高めるとともに、人々の日常的な利用を促進する。

○活動内容：

①「民間敷地をパブリックな滞留空間に！」ワークショップの開催（7月～9月頃）

参加者：沿道施設、町会、地域団体、千代田区役所関係課、千代田区社会福祉協議会等を想定。提案者からの声掛けや公募を行う。

WS企画内容：千代田区道201号周辺に求められているパブリック空間とそれを実現するための手法について、全4回にわけてWSを実施。各回の内容は以下を想定。

第1回 千代田区道201号周辺に求められているパブリック空間の在り方について

第2回 民間敷地の連携手法と社会実験について①

第3回 社会実験について②

第4回 今後の使い方を実現するためのルールづくりや協力体制について

② 民間敷地と道路空間の一部を一体的に利用する社会実験の実施（数日程度）

平日（11:00～17:00を想定）に千代田区道201号沿道の民間敷地（当社敷地含む）を一体的に利用する社会実験を行う。個々の民間敷地は小さいため、多数かつ多様な需要を受け入れられないが、連携した活用によってそれを実現する。

現在の実施イメージ)

ストリートファニチャー
設置



地域団体と協力した
催しにも利用



階段を一時的な滞留空間
として開放



キッチンカー出店



※周辺施設の敷地利用は要交渉

出典) OpenStreetMapを基に作成

【開催までのスケジュールを記載してください。(企画の検討や周囲との合意形成等の準備期間を踏まえて)】

	活動内容①	活動内容②
6月	審査通知受領	
	WS参加者募集 WSチラシ配布	沿道施設への協力依頼
7月	WS第1回開催 振り返り・次回企画	企画内容の検討
8月	WS第2回開催 振り返り・次回企画	道路占用・使用許可、地域調整
9月	WS第3回開催 振り返り	社会実験チラシ配布
10月		社会実験実施
11月	WS第4回開催 振り返り	イベント結果に基づいた課題整理
12月～ 1月	活動内容①②を踏まえた今後のウォーカブル施策の検討	

区に支援いただきたい事項区に支援いただきたい事項

【今回の活動を行いたいと思った理由を記載してください。（地域の課題やそれに対する解決策、まちに対する思い等を踏まえて）】

- 番町・麴町エリアでは、公園・広場等のパブリック空間が不足している。当社の前では以前より、子どもを送迎する親たちが交差点の角で立ち話をする光景、営業マンが立ちながら自転車の荷台にパソコンを載せて作業をする光景が見られ、当エリアにおける滞留空間の必要性を実感している。そこで、こうした人々がふらっと立ち寄れる場所をつくりたいという思いから、社内有志によって2024年3月より当社敷地内の一部を活用した「パーチ！」を創設した。「パーチ！」は「自由に立ち寄れる場所」として周囲にも認識され、利用が定着してきている。
- 一方、想定より多数かつ多種多様な方々に利用いただいております、当社単独での取組に限界を感じているのが実情である。
- 他方、番町・麴町エリアは既成市街地であり、公開空地をはじめとする民地のオープンスペースを都市開発プロジェクトで生み出すハードルはかなり高いと認識している。また、当社周辺は一方通行路やコミュニティバスルートも多いことから、道路空間活用によるウォカブルな活動を日常化することも難しいと考えられる。
- 上記のような課題及び実情を踏まえ、沿道施設で協力し、民間敷地を少しずつ出し合って、パブリック空間を“一体的”かつ“日常的”に創出することを図る。
- また、本活動を先駆けとして、既存民間敷地の活用が促進され、番町・麴町エリアをウォカブルなまちにしていきたいと考えている。

【今回提案する活動の実施体制や役割分担、収支予定について記載してください。】

○実施体制・各主体や団体内の役割分担

実施主体（コーディネート）：中央復建コンサルタンツ株式会社東京本社

協力を依頼する沿道施設：

、 等

その他協力団体（想定）：麴町二丁目町会等の町会、教育機関、市民活動団体 等

○収支予定

収入：30万円（千代田区助成金30万円）

支出：30万円（広告費、備品費（ストリートファニチャーなど）、消耗品費（熱中症対策など）、滞留調査用備品費（ビデオレンタル代など）等）

【今回の活動後、継続的な活動を検討されている場合はそちらも記載してください。】

「パーチ！」として、当社敷地の開放はこれまでと同様に継続する。また、今回の実証実験での課題を踏まえ、沿道施設の民間敷地利用も進めていきたい。

【今回提案する活動のポイントを記載してください。】

- これまでは、当社単独で取り組んできたが、今回の活動をきっかけに地域全体の活動として“日常化”を図る。
- 当エリアは、パブリック空間が不足していることから、民間敷地の余白を活用して一体的にウォカブルな空間づくりを行うことが肝要である。そこで、本活動を通じて、公開空地等のいわゆる半公共空間だけでなく、一般の民間敷地もパブリック空間として利用するハードルを下げ、番町・麴町エリアとしてのウォカブルなまちづくりを進める。また、小さい敷地をストリート単位で一体とするアイデアを実践し

た、既成市街地で都市の余白を生み出す先進的な事例とする。

- また、活動内容②の社会実験は、日常的な滞留空間を創出するとともに、市民団体の他、[redacted]や[redacted]の卒業生など、地域交流を育む活動団体の実践の場としての機能を兼ねる。彼らの活動の広報機会となるとともに、日常的な利用における新たな地域交流の機会を創出する。

本活動に採択された場合、実施するにあたって下記に同意していただく必要がございます。同意いただける場合は、各項目の口をチェックを付けてください。（同意いただけない場合は、採択いたしかねますのでご了承ください。）

- ☒ 募集要項に記載の「3 応募資格」および「4 活動の要件」を満たしていること
- ☒ 採択後に本活動の趣旨に明らかに適していないと区が判断した場合は、活動の支援を取りやめる可能性があること
- ☒ 今後のさらなるウォークブルなまちづくりの推進に向けて、提案書や活動報告書等については千代田区のホームページ等にて公開するため、了承の上作成すること
- ☒ 今回の活動を機に、その後の活動の支援を確約できるものではないこと

※上記に加え、企画書や説明動画などの補足資料を添付していただいても構いません。